

# 鬼北町施政方針

6月25日に開催された第2回鬼北町議会定例会において、甲岡町長が平成21年度施政方針を説明しました。概要をお知らせします。  
\*議会定例会の内容は、9月号でお知らせします。

## ◎施政の取り組み

これからの地方は、間違はなく、生き残りを賭けた苦難の時代を迎えます。鬼北町においても、財政の疲弊に加えて、地域経済の閉塞感、停滞感が追い討ちをかけるという厳しい現状に直面しています。このまま変革を求めず手をこまねいては、現状を打破できないばかりか、解決策は生まれませんし、ましてや進歩・発展は望めません。

す。

今は、「何でもできる」という時代ではありません。施策の取捨選択を誤ると衰退の一端をたどるといえる厳しい状況にあります。そうならないための町を構築していくためには、「今何をなすべきか」「しない勇氣は何か」「真に町民が求めているものは何か」あるいは「次世代につなげていくものは何か」など、ムダ、ムリ、ムラを省き、行政の諸々の課題を一つ一つ克服していく勇氣が必要です。

行政は、町民が夢と希望を抱けるような先見性と具体性に満ちた明確な町の将来像を示していかなければなりません。それが我々に課せられた使命であると自認しているところです。

私は「厳しい時代だからこそ真価が問われるのだ」という緊張感と危機感を常に堅持し、時流に乗り遅れることのないよう個性的で魅力ある町づくりを推進す

ることが重要であると思っています。そのためには、国や県、場合によっては世界が発信するグローバルな情報をすばやく察知して、即応力ある分析・企画・調整を行い、誤りのない判断ができる行政システムを構築する必要があります。他を追い越し生き残るためには、新機軸への常なる工夫と創造へのたゆまぬ挑戦が不可欠となりますし、常に先取の気概を持つて事に当たるといふ姿勢が重要であると認識しています。

また、町民の誰もが「鬼北町を愛している」「鬼北町は安全・安心はもとより安息の地だ」と言っていただけける魅力ある町づくりを推し進めることが急務であると考えています。「働く喜びが実感できる町」「福祉・保健・医療の充実した町」「人が集まるにぎわいのある町」など、取り組むべき課題は、多種多様で山積しています。これらを一つ一

つ実現していくためには、官と民が一体となった行政と町民との協働による町づくりをさらに発展させる必要があると考えています。そのために行政としては、町民の期待を裏切ることなく、不断の努力を惜しまず精励することが、職員にとつては肝要となりますし、町民にあつては、一人一人が「自ら町づくりに参加する」という変わらぬ情熱と積極的な実践力を発揮していた

## ◎施策の概要

### 新しい時代に対応する行財政改革を実行し、行財政運営の効率化と健全化に努めます

だくことが不可欠であると考えています。私は、町づくりはいかに個性と独自性を具現化するかにあると思います。オンラインワン主義で独自性を発揮することにより、県内はもとより、国の内外で高く評価され、認知される町になると確信していますし、何よりも自主・自立した自治体として、その存在感と価値観を高めることになるかと強く主張するものです。

#### 行財政改革の推進

現行の集中改革プランを着実に実行し、新庁舎建設はしないという考えのもと、分庁方式の導入も含めた簡素で機能的な組織機構の構築に努めます。

また、経常的経費の削減をはじめ、町有財産等の適正な配備と各種補助事業や管理運営等の見直しを行い、節約をモットーに行財政の健全化と効率化に努めます。

#### 参画と協働

町民の皆さんへの情報提供や民意の把握に努め、地域社会への広範な町民参画を促し、町づくりへの関心を高めながら個性豊かな町づくりに努めます。参画と協働の実現には、町民の自主的な活動を支援し、拡張していくことで相乗的な効果となつて現れてくるものであると考えていますので、効果的な支援策についても検討します。